

## 研修プログラム概要

研修期間	2	年間
研修病院（代表病院）	亀田総合病院	
研修協力病院（パートナー病院）	亀田クリニック	
研修協力薬局（パートナー薬局）		

区分	研修項目 【ガイドライン推奨期間】	研修期間	研修時期	研修施設	研修のポイント・特色
必修	(1) 調剤業務 【3ヶ月程度】	4.5か月	2年間の中で実施	亀田クリニック・亀田総合病院	内服薬・外用薬の調剤、処方監査、疑義照会、投薬窓口での服薬指導等を通じて、調剤業務に必要な基本的知識と実践力を修得する。亀田総合病院および亀田クリニックにおける調剤業務を経験し、入院・外来それぞれの薬剤業務の流れを理解する。研修到達度については、ルーブリックを用いて評価する。
必修	(2) 医薬品の供給と管理 【2週間以上】	3週間	2年間の中で実施	亀田総合病院	医薬品の発注、保管、在庫管理、品質管理、各部署への供給体制等について学ぶ。病院内における医薬品供給の流れを理解し、安全かつ安定的な医薬品管理に必要な基本的知識を修得する。研修到達度については、ルーブリックを用いて評価する。注射調剤科で麻薬管理、病棟において期限確認などの薬品管理を行う。
必修	(3) 医薬品情報管理 (D1) 【2週間～1ヶ月】	2か月	2年間の中で実施	亀田総合病院	医薬品情報の収集、評価、整理、提供に関する業務を通じて、D1業務に必要な基本的知識と実践力を修得する。医療従事者からの問い合わせ対応、医薬品情報の発信、副作用情報の収集・評価等を学ぶとともに、副作用情報センターの研修を兼ねて実施する。研修到達度については、ルーブリックを用いて評価する。
必修	(4) 病棟業務 (薬剤管理指導) 【6ヶ月程度】	6か月	1年目後半より開始	亀田総合病院	病棟における薬剤管理指導、持参薬確認、処方提案、服薬支援、多職種連携等を通じて、入院患者に対する薬学的管理を実践的に学ぶ。感染症内科での研修を含めた臨床研修として実施し、患者の病態や治療方針を踏まえた薬物療法支援に必要な知識と実践力を修得する。院内調剤科では持参薬確認から服薬計画立案までを行う。病棟研修期間中、症例カンファレンスは毎日行う。
必修	(5) 在宅訪問 【1ヶ月程度】	3週間	1年目の12月	亀田クリニック・亀田総合病院	薬剤師レジデントを対象として、病院内の在宅医療部において在宅訪問研修を実施する。在宅療養患者に対する薬学的管理、服薬状況の確認、多職種との情報共有等を通じて、在宅医療における薬剤師の役割を理解し、継続的な薬学的支援に必要な基本的知識を修得する。
必修	(6) 医療安全 【全期間】	全期間	全期間	亀田クリニック・亀田総合病院	全研修期間を通じて、医療安全に関する基本的な考え方と実践方法を学ぶ。院内のリスクマネージャー研修を順次受講するとともに、インシデント対応や報告書作成を経験し、薬剤師として医療安全に関与するために必要な知識と対応力を修得する。
必修	(7) 感染制御 【全期間】	全期間（重点1.5か月）	全期間	亀田クリニック・亀田総合病院	全研修期間を通じて感染制御に関する基本的知識を学び、院内講習会を受講する。さらに感染症内科において1.5か月間の重点研修を実施し、抗菌薬適正使用、感染症診療における薬学的介入、多職種連携等について実践的に学ぶ。感染制御における薬剤師の役割を理解し、基本的な実践力を修得する。
必修	(8) 地域連携 【全期間】	全期間	全期間	亀田クリニック・亀田総合病院	退院時薬剤指導や外来・入院間の情報共有を通じて、全研修期間を通じて地域連携について学ぶ。亀田総合病院、亀田クリニック、亀田リハビリテーション病院等との連携を通じ、施設間における薬剤情報の共有と継続的な薬学的支援について理解を深める。
必修	(9) 無菌調製 【2週間】	3.5か月	2年間の中で実施	亀田総合病院	注射調剤科においてTPN等の無菌調製を学び、化学療法科において抗がん薬の無菌調製を実践的に学ぶ。無菌操作、調製手順、曝露対策、品質管理、安全管理等を通じて、無菌調製に必要な基本的知識と実践力を修得する。
必修	(10) がん化学療法 【1ヶ月】	2か月	2年間の中で実施	亀田総合病院	がん化学療法における処方監査、支持療法、患者指導、副作用モニタリング等について実践的に学ぶ。レジメンの理解、抗がん薬の安全な取り扱い、外来・入院における薬学的介入を通じて、がん薬物療法に必要な基本的知識と実践力を修得する。研修到達度については、ルーブリックを用いて評価する。
選択	(11) TDM	2か月	主として病棟研修時に実施	亀田クリニック・亀田総合病院	病棟業務期間を中心に、TDMを実践的に学ぶ。研修段階に応じたステップを設定し、薬物血中濃度の解釈、投与設計、モニタリング、医師への提案までを段階的に修得する。外来におけるTDMについても、亀田クリニックおよび化学療法科での研修を通じて理解を深める。
選択	(12) 専門領域 (ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療等)	病棟期間内で実施	主として病棟研修時に実施	亀田クリニック・亀田総合病院	ICUおよび周術期（手術室）は必須研修とし、小児、産婦人科、精神科等の領域については任意研修として実施する。各専門領域・特殊集団における薬物治療について専用のカリキュラムに基づき、病棟研修期間内に段階的に学ぶ。
選択	(13) その他	他部門研修：3か月 海外研修：1週間 研修配属：6か月	他部門研修は1年目後期、海外研修は2年目後期	亀田クリニック・亀田総合病院	薬剤師レジデントを対象として、他部門研修および海外研修を実施する。他部門研修では、リハビリテーション部門、医事課、看護部、麻酔科、栄養管理室等において、3か月間をかけて多職種の業務や役割を学ぶ。海外研修では、シンガポールのNational University Hospital (NUH) において1週間の研修を行い、海外の医療制度や薬剤師業務について理解を深める。また、一般職員については、2年目後期に約6か月間の研修配属を行い、薬剤部内の各部署において実践的な業務を経験する。配属先の業務を通じて、ルーブリックにおけるレベル3相当の到達度を目標に、必要な知識・技能・態度を修得する。

当院では、一般職員を対象とした2年間の研修カリキュラムと、薬剤師レジデントであるITSP-PPRの2つの研修カリキュラムを整備している。調剤、注射、製剤、D1、がん化学療法、病棟業務等を体系的に履修し、薬剤師として必要な基本的知識・技能・態度を段階的に修得する。一般職員は全科でルーブリック評価レベル2、研修配属科でレベル3相当の到達を目標とする。ITSPでは、医師診療科研修、他部署研修、在宅・地域医療関連施設研修、海外研修等を通じて、多職種連携、地域医療、国際的視野を学ぶ。研修評価、メンター面談、教育担当者等を通じて、研修者の成長支援とカリキュラム改善を継続的に行っている。

### 補足事項